

【優秀賞】

教育から考える若者の金融力育成
～難しい金融から知りたい金融へ～

香川大学教育学部 小山 沙織

久保田 直寛

鈴木 孝迪

教育から考える若者の金融力育成

～難しい金融から知りたい金融へ～

I 問題の所在

戦後 60 年の中で、日本人は豊かさを求め、楽しさや便利さを重視してきた。そして、今日の日本には、自由や個性のはき違いと思えるような自己中心主義が多く見られるようになってきた。そのような社会背景が、お金や金融に関わる様々な事件にも関連しているのではないかとと思われる。また、若者の金融政策への無関心さや、認知度の低さも現代社会における大きな問題だと考える。

このような背景の中、金融広報中央委員会の支援のもと、小学校・中学校・高等学校において金融教育が行われ始めた。そこでは、お金と生活について、金融や経済の仕組み、あるいは心の問題など、多岐にわたっている実践が展開されている¹。しかし、大学生に対する金融教育は殆ど実践されていない。

現実の生活では、クレジットカードを使ったり、自分の貯金通帳にアルバイト代を振り込んでもらったり、何らかの形で金融に関わっている。

その一方で、教員を目指す教育学部の私たちも、金融についてあまり興味・関心をもたず日々を過ごしている。多くの大学生にとって、金融は別世界のことと捉えがちで、金融政策にも意見や考えを殆ど持っていないのではないかと予想される。その原因の一つには、マスコミで用いられている金融に関する用語が難しいことが、興味のもてない別世界のこととして感じられがちなのではないかと考えた。

そこで、大学生の金融に関する用語の理解や意識を探るためにアンケートを実施し、それを基に問題点を挙げ、改善していくための幾つかの提案をしたい。

II 金融政策に関するアンケート

(1) アンケートの方法と内容

香川大学の教育学部生 172 人²に対して、「金利自由化」、「量的緩和」、「ゼロ金利政策」、「外為」、「準備預金制度」、「公定歩合」、「コールレート」、「インフレ・ターゲット」、「オペレーション」、「ロンバート貸出」の 10 の用語について、その理解度を尋ねた。「理解している。何となく説明できる。」「聞いたことはあるが、理解していない。」「全く聞いたこともない。」の 3 件法で回答を得ることとした。各項目については、新聞・マスコミや日銀のホームページで取り上げられているものから選んだ³。また、日本銀行や日本政府の金融政策に対して「こうすべきだ」「ここが足りない」「自分はこうすればよいのでは」といった意見を自由記述として得ることと

した。尚、アンケートは、平成 17 年 11 月 24 日に行い、その際に高校での社会科の選択についても調べることにした。

(2) 結果と考察

①金融に関する用語の理解

アンケートの結果、10 項目の中で最も理解度が高かったものは 172 人中 86 人 (50%) が「理解している。」と答えた「公定歩合操作」であった。これは、「聞いたことがある。」と回答した人も含めると 149 人となり、約 87% の学生が知っていることになる。その理由としては、中学校「公民」の教科書で取り上げられていて全員が学習しているため、理解度が高かったと思われる。

その次に理解度が高いものは、「オペレーション (買いオペ・売りオペ)」である。これは「理解している。」との回答が 41 人 (約 24%) で、「聞いたことはある。」も含めると 141 人 (約 82%) となる。

逆に、全く知られていなかった用語は、「ロンバート貸出」と「コールレート」であった。これらは、マスコミを通して耳にする機会も多くなってきた用語であるが、「理解している。」と回答した学生は、「ロンバート貸出」が 1 人で、「コールレート」は 0 人であった。「聞いたことはある。」と答えた学生を含めても「ロンバート貸出」が 14 人 (約 8%)、「コールレート」が 29 人 (約 17%) という結果であった。全体の回答状況は、巻末の図 1 に示す通りである。

大学生のこのような現状は、それまで受けてきた中学や高校での学習内容やカリキュラムにも大きく関係しているのではないと思われる。また、大学生の生活アンケートでも、あまり新聞を購読していない現状⁴、テレビにおいてもニュースや経済関係の番組は見えていないことが伺われる。さらに、高校でのカリキュラムにおいて、「政治・経済」を履修していない学生が、今回のアンケート対象者では 146 名と全体の 6/7 もいた。つまり、高校で「政治・経済」を履修する学生が極端に少ないのではないかと想像される。そういったことも、金融に対する興味・関心が持てないことの一因ではないかと思われる。

②日本銀行や日本政府の金融政策への意見

日本銀行や日本政府の金融政策に対して、学生に自由記述で意見を求めたところ 40 名より回答を得た。残りの 132 名については、無記述、または「特になし」「わからない」であった。記述された主なものとして次のようなことがあげられた。但し、これらの意見については、日本全体のことを視野に入れて考えたというよりも、自分の現実の生活をもとに書かれたと思われる

ものがある。

○金利をあげてほしい（利子が少ないので、貯金する気になれない。） 16名

○安心してお金を預けられるように金融の安定化に力を注いでほしい。 6名

○国民に対する借金の国債をどうすべきか、明確にしてほしい。 5名

○公的な無駄遣いと思えるようなことをやめてほしい。 4名

○二千円札は必要ないのではないか。 2名

それ以外の意見については巻末に示すこととする⁵。

Ⅲ 若者の金融力育成のための提案 ～知りたい金融へ～

アンケート結果を見ると、用語を正しく理解していないだけではなく、金融や政治・経済に対して興味・関心が持てない学生が増加しているのではないかと思われた。また、大学生になるまでの学習内容やカリキュラム等の問題も影響している。そのようなことも考慮して、大学生も含めた若者の金融への興味や関心を喚起し、金融力を育成するための方策として以下の7つの提案をする。

（１）「金融のプロによる出前授業」を内容多彩に募集

中学や高校で、金融にかかわるプロの方（例えば、日銀の社員）から出前授業を受ける機会を設けることである。金融に関わりのある中学社会（公民）や高校社会（政治・経済）の時間だけでなく、総合的な学習や学級活動、ホームルーム等の時間毎に、協力支援できる多様な内容を明示して募集をするのである。

教科書等で扱われている分かりにくい用語の説明だけでなく、日ごろ「金融」と密着した生活をしている方の最新の現状や生徒たちの素朴な質問に答えることで、「金融」に対する興味・関心を引き出すことができると考える。

こうした出前授業を継続的に行うことで、「政治・経済」を履修しようとする学生も増えてくるのではないだろうか。

（２）マンガや雑誌に金融関係の話を掲載し、各大学等への配布

学生にとって、一番身近な読み物であろうマンガや雑誌に金融関係の話を掲載したり、政策の説明に漫画や図解をより多く取り入れたりすることで、少しでも金融に対する興味・関心を持たせることができると考える⁶。

また、その基になる漫画、図、ストーリーを一般や大学生から募集すれば、より身近な問題として捉えられるのではないだろうか。マンガであれば、小・中学生も読みやすくなり、この時期に興味をもてば、その後において苦手意識を感じることは少ないであろう。

（３）ホームページの内容をより広く周知

日本銀行のホームページ（以下：HPと表記）（<http://www.boj.or.jp/>）は「教えて！にちぎん」と題して、Q&A方式で疑問や質問に答えるページが

充実している。さらに、「わかりやすい金融政策」、「用語の解説」、「にちぎん☆キッズ⁷⁾」のページも開設してあり、金融政策の仕組みなどが大人から子どもまで分かりやすい内容となっている。しかし、約20人程の身近な大学生に聞いたところ、誰一人としてそのHPを見た学生はいなかった。確かに、日々の生活では必要がないのかもしれない。初めてこのHPを見た私たちにとっては、「全然知らなかった、面白い、もっとみんなが使えば・・・勿体ないぞ。」や「しっかりとしたコンテンツが設けられているにも拘わらず、認知度があまり高くない。」といったことが気になった。

そこで、小・中・高校の様々な学習の時間にこのHPが活用されれば、金融に対しての興味もより喚起されると思えた。そのために、HPの内容がより多くの人に周知される機会を増やさなければならない。そして、各学校のHPが「にちぎん☆キッズ」に常にリンクできていれば活用頻度も上がるのではないかと考える。具体的には、リンクの了承手続きや遵守に関する事項の簡略化と規制の緩和が必要であろうと思われる。

さらに、HPにおいて、夏休みの自由研究や調べ学習で金融に関わる内容を取り上げることができるという事例等を紹介してはどうだろうか。日銀のHPが、子どもや若者が金融に対して働きかけるきっかけとなる情報発信の窓口であってほしいと考える。

(4) 誰もが学べる銀行見学への改善と拡大

日本銀行では、店内見学を受け入れている。ビデオや、ロビー見学などのプログラムを組んでおり、金融に興味を持つことができる、とても貴重な機会である。私たちも日銀高松支店を見学し、約2時間の充実した内容で、金融に対する認識を深めることができた⁸⁾。このような機会をより多くの人に体験してほしい。そこで、現在制限されている人数や時間、曜日をできる限り緩和し、多くの人を訪れることができるように改善してほしい。また、中央銀行である日本銀行がイニシアチブをとって、民間の銀行においてもそのような機会を設け、仕事に支障のない限りで学校等の要望に応じてできる体制を整えてほしいと願う。実際に、その場所を訪れ自分の目で見ることで親しみも増し、金融政策等にも興味を持てるであろう⁹⁾。

(5) 高校生・大学生によるパンフレットコンテスト

お金や金融についての若者の興味を喚起し、さらにその輪を広げるため、パンフレットやリーフレットを高校生や大学生らが作成し、コンテストを行う。アンケートの結果からも、金融に関する用語が分かりづらい、イメージしにくいのではないかと思われた。そこで、素人の目線から金融のパンフレットを作ることで、金融を身近なものとして捉えることができるのではない

かと考える。できたパンフレットを様々な場所に配布することで、若者がより興味を持ちやすい環境作りの一助としたい。

(6) 金融に関するコマーシャルの放映

最近では、無計画にお金を借りて借金に陥る人、カードローンで破産する人など、金融トラブルに対する危機意識がもてない若者が増加している。

そこで金融の怖さや厳しさを伝える内容のコマーシャルを繰り返し放映することも必要であろう。ただ留意したいのは、マイナスのイメージを伝えるだけでなく、正しく知ることによって未然にトラブルを防止できるといった内容にすることである。可能であれば、あまりNHKを見ない若者のことも考慮して民放での放映も検討してほしい。

(7) 中学校・高等学校の教科書の内容についての改善に働きかける。

現在、中学校の「公民」、高等学校の「政治・経済」において、金融や日本銀行について取り上げられてはいるものの、そのページ数は現在の社会背景等を鑑みて適切とは言えない。中学校の教科書において、共通に出てくる金融関係の用語は「公定歩合」だけである。決して十分とは言えないだろう。

そこで、現代のシステムや生活状況にあった内容の改善を文部科学省や教科書会社に提案してもらいたい。それに加えて、内容に準拠した図表等のより分かりやすい資料を作成、配布することも提案する。お金や金融に関する学習はとても大切なことであり、子どもたちが常に現実の社会や日々の生活の内容を知ることができなければ興味ももてないと考ええる。

IV 終わりに

前述した7つの提案に共通して関わることは、若者が金融について「正しく知り理解する」場と機会の提供である。そのことが、金融政策等への興味や関心を高めることにつながり、生活の中での身近な金融への関わりを意識することになる一つの道であると考えた。様々な教育に関わる場を生かし、そのことを実現していくことが可能であると考え¹⁰。

この応募に際し、金融教育指定校の研究会に参加した。その学校では、お金の流通の学習を道の駅での野菜の販売を通して、体験的に行っていた。さらに、お金に関わる心の勉強もしていた。今、正しさを判断する力は、学校教育の場だけでなく、日本の社会に大切な概念として求められていると考える。それは人間としての在り方や生き方、心の問題とも深い関わりがある。金融に正しく向き合う若者を育成することが、清く正しい金融力を持った日本社会の創造につながることを願う。

そして、そのために教師を目指す私たちにもできる金融力育成の小さなことは身近にたくさんあることを意識して生活していきたい。

-
- 1 金融教育ガイドブック ―学校における実践事例集― 金融広報中央委員会編 平成17年3月
 - 2 内訳は、1年生122人 2年生28人 3年生12人 4年生10人
 - 3 その際、中学校・高校の殆どの教科書で触れられているものとして、「金利自由化」「準備預金制度」「公定歩合」「オペレーション」を取り入れた。
高校で活用されている政治・経済の教科書をみると、各社の記述は若干違いがある。言葉の扱いや重点的に説明している箇所の違いが見られる。
 - 4 第9回 学生生活実態調査報告書 香川大学 平成16年度
その他、アンケートの回答に於いて新聞購読者には挙手を求めたところ3分の1もいない現状であった。
 - 5 本文に示していない意見として以下の記述が各1名ずつであった。
 - ・ 中学や高校の教科書で「投資信託」や「株式」などの資金の運用について扱ってほしい
 - ・ 銀行見学を積極的に進めてほしい
 - ・ 消費税を上げてほしい
 - ・ 消費税を下げてほしい
 - ・ 言葉、用語、説明を簡潔にしてほしい
 - 6 例えば、文部科学省の家庭教育手帳は一部に漫画が取り入れられており、大変読みやすい。また、NHKの週刊子どもニュースでは、難しい社会問題を簡単な図解で解説していて、子どもたちにも人気がある。
 - 7 また、子ども用ページとして、「にちぎん☆キッズ」というコーナーがある。お金とは何かという根本的な疑問、お金の流れや価値についてなどが、とても可愛いアニメでしっかり紹介されている。
 - 8 平成17年12月9日の午後に日本銀行高松支店を見学した。ただ、見て回るといった見学ではなくて、いろんな観点から日本銀行や金融に関わる内容を学ぶことができた。内容は次のようであった。

時間：１３：１５～１５：１５

日本銀行高松支店見学内容

ビデオによる日本銀行の役割について視聴	約２０分
偽造券レクチャー	約２０分
ミニ知識クイズ	約２０分
ロビー・広報ルーム見学	約２０分
大学教員よりの話	約５分
香川における金融・金銭教育の取り組み	約１０分
高松支店長よりのお話	約３０分

９ 銀行へ行きたくても，なかなか行くことのできない若者もいる。そういった学生には，電話によるテレフォン相談の設置やそのことに関するＨＰ等での周知を行うことも可能である。

１０ 小・中・高校だけでなく、大学においても金融教育は必要であり、実現可能であろう。例えば、入学時にでも以下のようなことであればすぐに行けるのではないだろうか。講習会、相談窓口、チラシ、日本銀行の支援による共催等、いろいろとできそうである。

○キャッシュカードの利用について

○インターネット販売のリスク

○生活設計における保険と貯金

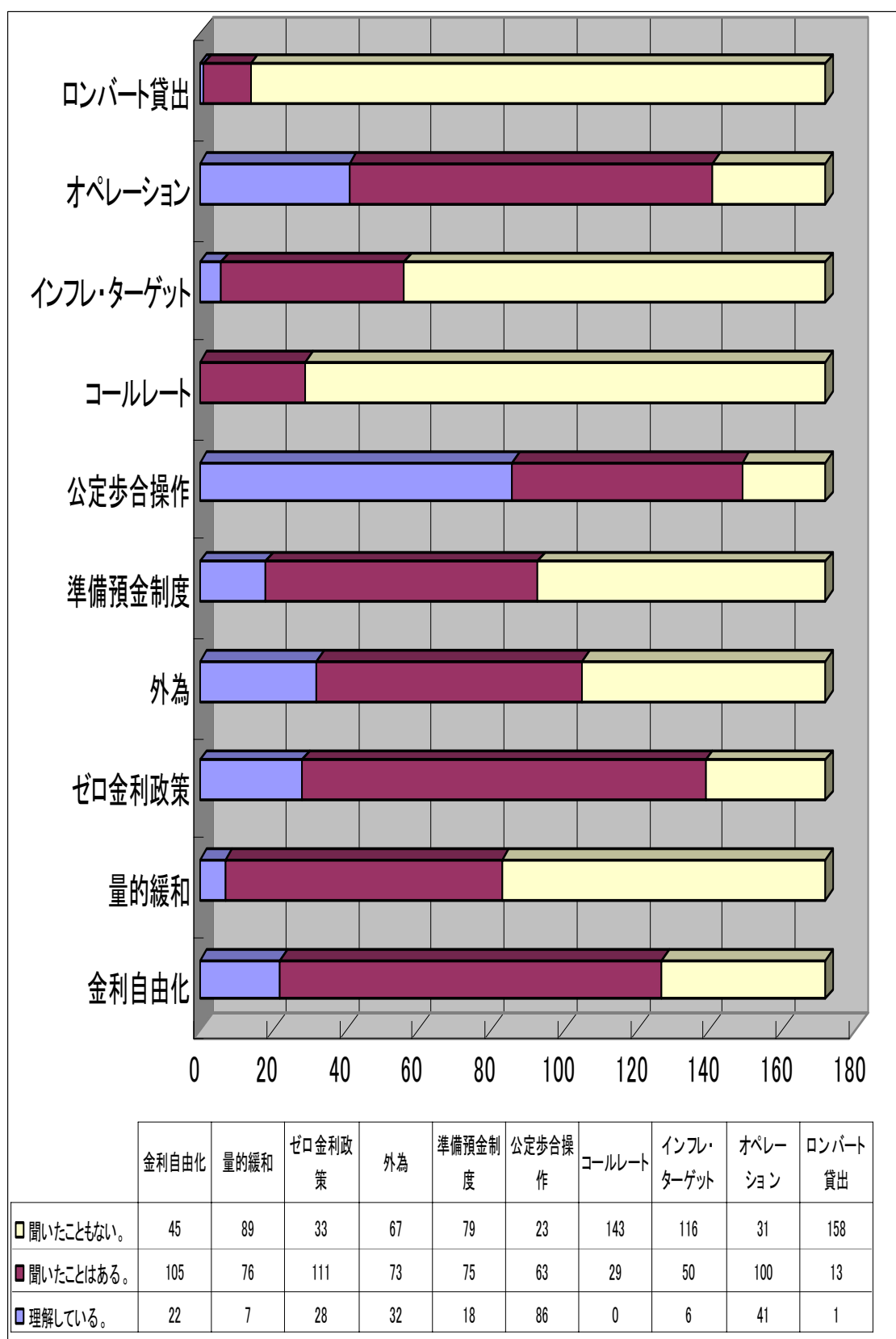


図1 「金融に関する用語の理解」 アンケート結果

金融政策に関するアンケート

学年_____年 （ 男 ・ 女 ）

テストではありませんので、自分の思うとおりに記述して下さい。

高等学校での社会科の選択

以下に示す10の用語は、日本の金融政策についてマスコミ等で使用されているものです。あなたは、これらの用語についてどの程度理解できていますか。一番近いところに○を付けて下さい。

用 語	理解している。 何となく説明できる。	聞いたことはある が、理解できていない。	全く聞いたことも ない。
金利自由化			
量的緩和			
ゼロ金利政策			
外 為			
準備預金制度			
公定歩合操作			
コールレート			
インフレ・ターゲット			
オペレーション（買いオペ・売りオペ）			
ロンバート貸出			

☆ 日本銀行や日本政府の金融政策について「こうすべきだ」、「ここが足りない」、「自分
はこうすればよいのでは・・・」と思うことを自由にお書き下さい。

ありがとうございました